



由比宿



由比宿：小池邸



由比宿：中峰神社入口

明治天皇御小休所跡
問の宿
脇本陣 柏屋



注意
この道は
狭いので
歩行者は
注意を
払って
歩きましょう

薩埵峠入口



望嶽亭 藤屋
山田鉄舟ゆかりの家

道のエココミュニティ 実業家2号6棟
薩埵峠
駿寄歩人

TOKAI SECURITY

ふるさとを見なせよう
戦国時代、足利尊氏の弟直義と合戦の古戦場として知られ、又東海道随一の難所「見知らず子知らず」の悲話が残されています。
峠は磐城山、峠崎ともいわれます。

一里塚跡

一里塚跡（由比町西倉沢）
江戸から牧えて日比野の二里塚である。だから江戸から凡そ二里のキロの距離になる。
ちなみに山比駅より西倉沢は二五八、四キロである。この一里塚は薩摩崎東寄り口に位置し、塚には石が埋められていた。
平成四年三月
由比町教育委員会









富士山稜線



天気であれば

三薩峠山之神遺跡







東海道
五拾三次之内

由井
薩埵嶺

歌川重忠



歌川重忠 「東海道五十三次 由井(薩埵嶺)」 (絵：東海道重忠美術館提供)

地すべり防止対策事業範囲

農道

町道(旧東海道)

JR東海道本線

国道1号

東名高速道路



清水市指定名勝 薩埵峠

(昭和三十七年九月十七日指定)





興津宿 宗像神社



興津宿



興津宿

米屋
高山仙吉商店

MIYAKE

1653001

興津宿



興津宿公園

由 来

北 緯 35 度 07 分 00 秒
東 経 138 度 31 分 10 秒
海 抜 47.93 m

東の山比羅に「東津12町」が知られ、西の山比羅に「西津2町」が知られ、山比羅の東津と西津を合して「興津」と呼ばれるようになった。山比羅の東津と西津を合して「興津」と呼ばれるようになった。山比羅の東津と西津を合して「興津」と呼ばれるようになった。

興津宿

「興津宿」案内板

「Okitsu Lodging Station」 Guide Map

「오키즈슈쿠」 안내판

明治元年十二月興津宿宿割地屋号



平成20年度 清水区魅力づくり事業

裏面に「興津宿の由来」の説明があります



江尻宿

EJIRI (3.9Km)

宿焼まで一里

静岡市

興津宿

OKITSUJUKU

由比宿

YUFI (9Km)

宿焼まで二里十一町

興津宿東本陣址

興津宿：東本陣

興津宿西本陣址

興津宿：西本陣跡

興津宿(古)

西本陣





東海名匯

清見寺

興津宿：清見寺



東海名区

見音

東海名区

20-25



庵原川



江尻宿



の丸交通株式会社
TEL: 0426-324-1177

日野の丸交通株式会社

山梨工業所
TEL: 0426-324-1177

江尻宿

江 淨 寺 4分
Road Temple 4min
江ノ子 4分
ほそいの松 26分
Hosoino no Matsu 26min
ほそいの松 26分

椎 兎 橋 10分
Chigasaki Bridge 10min
江尻宿本戸跡の碑 15分
Ebisu Koshijima Station Gokko Historical Marker 15min
江戸の宿本戸跡の碑 15分



清水銀座

江 尻



P 40分
10-20
パーキング・チケット

ハ
リ
マ
チ
カ
ラ
イ
マ
チ
カ
ラ
イ
マ
チ
カ
ラ
イ

BOOK
BOOK

BOOK
BOOK

清水銀座

「江尻宿」案内板

[Ejiri Lodging Station] Guide Map

「이지리 역참」안내판



遠州都田の吉兵衛の供養塔



追分の道標



江尻宿木戸跡の碑



感雲寺



平成20年度 清水区魅力づくり事業

東海道 江尻宿〔十八宿目〕

むかし「矢倉の辻」より、秋吉町の東側に称名寺集落があり、また吉添町・大手町あたりに、元宿という小字名が残っている。その周辺がもとの江尻(家尻)の宿場があったと思われる。

時代の変遷により、今川氏の頃から、この江尻は三日市場として栄え、永禄十二年(一五六九)武田信玄が江尻城(小芝城)を築くことにより、江尻は城下町となり職人の町が発達した。

慶長六年(一六〇〇)徳川家康は、東海道五十三次を定めるにあたり、それまで今の北街道が主要街道であったものをあらため、銀座通りを通すこととし、この地を江尻宿とした。

慶長十二年(一六〇七)巴川に初めて稚児橋が架けられ、交通が便利になり、江尻宿は上町(魚町)中町(仲町)下町(志茂町)の宿通りを中心に、西は入江町の木戸、東は伝馬町・鑄物師町・鍛冶町・本郷町から辻村の木戸まで長さおよそ二キロメートルであった。

宿は伝馬町と魚町で釣の手に曲がり見通しが悪く、また紺屋町・七軒町は袋小路になっているのは、万一の場合の警備のためであった。

宿には、人馬や物資の移動を管理する問屋場を中心に、大名の宿泊する本陣三軒、それに準ずる脇本陣三軒と、一般の旅籠屋が五十軒程たち並び、人びとの往来で栄えていた、江尻宿の昔の姿であった。

昭和五十九年一月



江尻地区まちづくり推進委員会

丸安小川建築所 青木浴槽店 あじさい 小川建築所	内田陶器店 青柳ンパ店 佐藤川茶屋 豊田商店	大和 大和 大和	旅館 梅家 ヒラノクリーニング ヒラノクリーニング ヒラノクリーニング	三電設 米田紺屋 清水ホンダ 販売部
小川美容家 久保山印刷	ハママ ハママ ハママ	大和 大和 大和	旅館 福住 かたじけなく かたじけなく	桐松永 ふとん店 トラディショナル ハウス
清水 清水 清水	清水 清水 清水	大和 大和 大和	旅館 福住 かたじけなく かたじけなく	クールミント 天定 天定

←
軽車両を除く
ここから



稚児橋

「江尻宿」案内板

[Ejiri Lodging Station] Guide Map

「에지리 역참」안내판



平成20年度 清水区魅力づくり事業



追分羊羹



夢舞台 東海道

江尻宿

EJIRI (0.8Km)

← 宿場まで七町

静岡市

元追分

MOTOIWAKE

府中宿

FUTYU (8.6Km)

→ 宿場まで二里七町

清水市

江尻宿



追分

府中宿



東海道

東海道という言葉は崇神天皇一〇年九月、四道將軍として武渟川別を東海に派遣した日本書記の記事に始まる。ヤマトタケルが東征の道に草薙劍の物語りを残し、古代大和朝廷確立と律令國家の爲の重要路として、防人達が遠く九州に下り、調を積んだ荷駄が大和に向けて通ったことであろう。中世には「いさ鎌倉」のために整備され徳川時代になり東海道に松並木を植え一里塚を築き整備された。慶長十二年(一六〇七年)徳川家康公の命により、当時の東海道は今の北街道を通っていたものをして日市場の巴川に大橋(現在の稚見橋)を架け追分上原を通り駿府横田迄駄路(正規の道)となった。善男善女が旅の途に大名行列が通り村人は助郷の課役に難渋し、賑やかな語りを残した東海道も國の發展と共に昔日の面影を失ってしまったがここに日本の歴史と共に歩いて来たことを末永く記憶の中に留めておきたい。

昭和五十九年一月

有度まちづくり推進委員会
有度公民館

一里塚の由来

一里塚は徳川幕府より慶長九年(一六〇四年)大久保長安を一里塚奉行に命じ一里(三九二米)を三十六町と定め東海道中山道に一里塚を築いた東海道は江戸(今の東京)日本橋を起点に京都までの一三〇里(約四七〇キロ米)の道の両側に松並木を植え一里毎に塚を築き此処に榎を植え目印とした

草薙一里塚は江戸より四十三里(一七〇キロ米)の処で四十三番目の塚です 道を狭んで南塚が在り一対となつて居た 塚は五間(九米)四方高さ一間(一八米)と大きなもので塚の脇には高札所があり榎の木の枝が繁り街道で塚の脇には高札所、飛脚、旅人の道しるべ、休息所等と往来の大名の参勤、飛脚、旅人の道しるべ、休息所等と成つて居た 榎の木蔭で旅の疲れを癒した旅人達が府中(幕府今の静岡市)二里半 あと一息を頑張らうと道中合羽に三度笠振り分け荷物を肩に旅立つ姿が惚はれます

因みに一里山の起原は此の地に一里塚が築かれており一里山と呼ばれる様になった

史跡

東海道
草薙

一里塚

SHIMIZU BANK

大久保長安を一里塚奉
を三十六町と定め東海道中
東海道は江戸(今の東京)日本橋
川(約四キロ米)の道の西側に
に塚を築き此処に榎を植え目印と
草薙(一里塚は江戸より四十三里(一七〇キ
番目の塚です 道も狭んで南塚が
居た、塚は五間(九米)四方高、一間(一八米
で塚の脇には高札所があり榎の大木の枝
往來の大名の参勤、飛脚、旅人の道しるべに
成りて居た。

榎の木蔭で旅の疲れを癒した旅人達を府中(今
静岡市)二里半、あと一息と頑張ろうと道中合
笠塚、分り荷物も肩に、旅立、茶を飲まれます。

因みに一里山の起原は此の地(一
おり)一里山と呼ばれ水も枯れなう